



2016年度  
決算説明会資料  
2017年5月10日

株式会社UACJ

1. 業績～2016年度、2017年度見通し

2. グローバル展開～タイ、北米、日本  
2016年度総括と今後の見通し

3. 財務状況、株主還元

4. 中期経営計画進捗

本日は、

1. 業績～2016年度、2017年度見通し
2. グローバル展開～タイ、北米、日本  
2016年度総括と今後の見通し
3. 財務状況、株主還元
4. 中期経営計画進捗  
の順にご説明いたします。

## 1. 業績～2016年度、2017年度見通し

2016年度実績、2017年度見通しについて説明します。

## 2016年度 通期業績の概要



経常利益 198億円（対前期比78億円増）

■ 数量：対前期比増、自動車、液晶・半導体製造装置向けが増加

■ 経常利益：対前期比78億円（65.0%）増

「主な増益要因」

- ・統合効果によるコストダウン
- ・タイ損益改善
- ・販売数量の増加
- ・棚卸評価関係の改善

配当年間 6円／株を予定

■ 安定配当の観点から、配当は年間6円／株を予定  
（中間配当3円／株、期末配当3円／株）

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

3

まず、2016年度通期業績の概要について説明します。経常利益は198億円、対前期比78億円の増益となりました。

数量については前期比で増加しました。アルミ板販売量が自動車、液晶・半導体製造装置向けで増加したことによるものです。

経常利益は、統合効果によるコストダウン、タイの損益改善、販売数量の増加、棚卸評価関係の改善等により増益となりました。

なお、2017年3月3日の公募増資、劣後ローンによる資金調達にともなう費用が発生した一方、3月以降、コストダウンの発現や、販売数量が増加したことから、経常利益は予想180億円を18億円上回り、198億円の着地となりました。

当期の期末配当は1株当たり3円、年間合計では6円を予定しています。

## 2016年度 通期業績

UACJ

(単位：億円)

	2015年度 (A)	2016年度 (B)	増 減 (B) - (A)
連結売上高	5,757	5,683	△74
連結営業利益	152	259	107
棚卸影響前 連結経常利益	203	240	37
連結経常利益	120	198	78
連結当期純利益	51	87	36
Adjusted EBITDA	523	568	45

※ 連結当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益  
 ※ Adjusted EBITDA：EBITDA - 棚卸評価関係

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

4

2015年度と2016年度の業績についての比較表です。

売上高についてご説明します。販売数量は前期を上回りましたが、円高による為替換算での減少、前期比での地金価格の下落による影響をうけ、対前期比74億円減少の5,683億円となりました。

営業利益、経常利益は、棚卸評価関係の改善、エネルギー単価の下落、統合効果によるコストダウン、タイの業績改善等により、営業利益は対前期比107億円増の259億円に、経常利益は78億円増の198億円となりました。

棚卸影響を除いた実力を示す棚卸影響前経常利益は、対前期比37億円増の240億円、Adjusted EBITDAは、45億円増の568億円となりました。

経常利益分析については、後ほど説明します。

なお、親会社株主に帰属する当期純利益は、対前期比36億円増の87億円となりました。

## セグメント別 売上高・営業利益

UACJ

(単位：億円)

	2015年度 (A)		2016年度 (B)		増減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	4,609	181	4,513	268	△96	86
伸銅品	469	3	432	7	△37	4
加工品・関連事業	1,671	37	1,667	37	△3	△0
(調整額)	△991	△70	△929	△53	62	17
合計	5,757	152	5,683	259	△74	107

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

5

セグメント別の売上高、営業利益について説明します。

当社グループの主力セグメントであるアルミ圧延品の動きは、当社全体の動きと連動していることから、後ほどご説明いたします。

伸銅品については、主要用途であるエアコンの出荷台数が総じて堅調に推移しました。一方、銅地金価格は期末にかけて上昇したものの、対前期比では低調に推移したことにより減収。営業利益は、棚卸評価関係の改善やコストダウン効果により増益となりました。

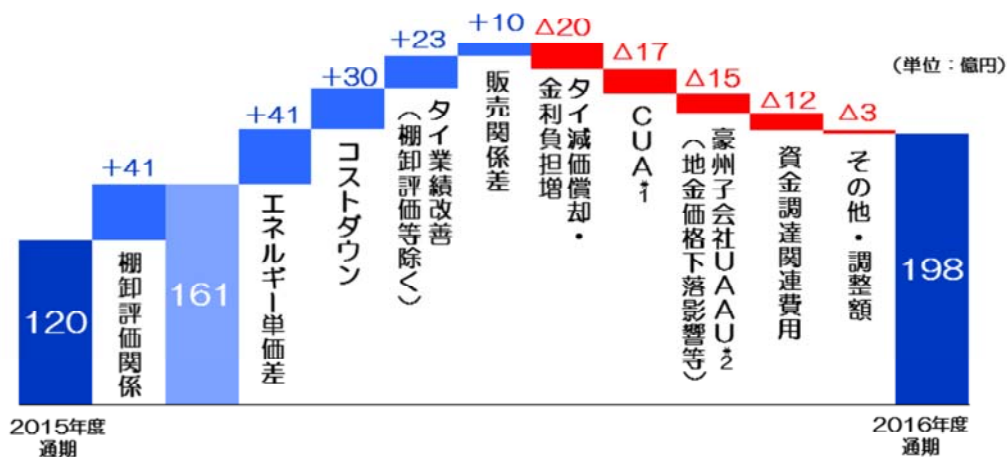
加工品・関連事業は、Whitehallの買収を行ったものの、既存事業の需要減少により、売上高は前期比並、利益は減収にともなう減益やWhitehall買収に伴うのれん償却もあり、前期比並となりました。

## 連結経常損益分析 (2015年度 → 2016年度)

UACJ

120億円 (2015年度) → 198億円 (2016年度)

統合効果差 +30億円を含む  
(2015年度 80億円 → 2016年度 110億円)



© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

\*1: CUA: Constellium-UACJ ABS LLC \*2: UAAU: UACJ Australia Pty. Ltd.

6

経常利益の損益分析について説明します。

経常利益は、2015年度の120億円から78億円増加し198億円となりました。

増益要因の内訳は、棚卸評価関係が前期比で好転したことによる41億円、エネルギー価格の下落に伴う41億円、統合効果によるコストダウンが当初予定の20億円よりも多く発現し30億円、タイの販売・生産性向上による業績改善で23億円、販売数量増加に伴う10億円です。

一方、減益要因の内訳は、タイで一貫生産が始まったことによる減価償却負担の増加と、設備投資に伴う金利負担増加による20億円、コンステリウム社とのJVであるCUA (Constellium-UACJ ABS LLC) の立ち上げ費用増加等による17億円、前期比での地金価格下落に伴う豪州にある子会社のUACJ Australia Pty. Ltd.での15億円、3月に発表した公募増資と劣後ローンによる資金調達関連費用での12億円です。

これら減益要因があったものの、全体としては、大幅増益となりました。

アルミ板 品種別売上数量		UACJ	
(単位千トン)			
品 種	2015年度 (A)	2016年度 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	614	626	11
箔 地	46	47	1
I T	21	20	△1
自 動 車	80	104	24
厚 板	62	67	5
その他一般材	146	158	12
合 計	970	1,021	51
	国内市場向け 510 海外市場向け 460	国内市場向け 518 海外市場向け 503	8 43

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved. 7

アルミ板の品種別売上数量は1,021千トンと、統合後初めて100万トンを突破し、対前期比51千トン増加しました。

国内市場向けが518千トン、海外市場が503千トンとほぼ国内と海外が拮抗しています。

主要な品種について説明しますと、缶材は、国内ではシェア調整等により減少しましたが、海外では、タイの販売量が増加したこと等により、全体としての販売数量は増加しました。

箔地は前年同期比並でした。ITは、重要顧客向けが若干減少しました。自動車は、アルミ化需要の伸長にともない、CUA向け母材や国内外の自動車用パネル材が伸びました。

厚板は、液晶・半導体製造装置向けが大幅に伸ばしました。  
その他一般材は、海外市場向けフィン材等が増加しました。



## 2017年度 通期業績見通しの概要



経常利益 300億円 (対前期比102億円増)

### ■ 数量 対前期比増

- ・タイの缶材が大幅に増加
- ・自動車向け、液晶・半導体製造装置向けも引き続き好調

### ■ 経常利益 300億円 (対前期比51.4%増)

- ・タイの損益改善
- ・販売数量の増加
- ・コストダウン
- ・棚卸評価関係の改善

配当 年間6円/株を予定

- 設備投資による支出、財務状況を勘案し、安定配当を継続  
年間6円/株を予定 (中間配当3円/株、期末配当3円/株)

\*単元株式数変更および株式併合 (2017年10月1日に変更) 前のベースで表記

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

8

続いて、2017年度通期業績見通しの概要について、説明します。

経常利益は300億円、対前期比102億円の大幅な増益を見込んでいます。経常利益は、統合後で最高益更新（統合後 2014年度 213億円が最高）の見通しです。

販売数量は、タイの缶材が大幅に増加するほか、自動車向け、液晶・半導体製造装置向けが対前期比で増加すると見込んでいます。

経常利益は、タイの大幅な損益改善、自動車向け、液晶・半導体向け需要の増加にともなう販売数量の増加、統合効果に伴うコストダウン、地金価格上昇による棚卸評価関係の大幅な改善で、対前期比51.4%増の102億円増の300億円を見込んでいます。

配当につきましては、先般発表の設備投資支出および財務状況を勘案、安定配当を継続し、1株当たり年間6円を予定しています。

## 2017年度 通期業績見通し

UACJ

(単位：億円)

	2016年度 (A)	2017年度見通し (B)	増 減 (B) - (A)
連結売上高	5,683	6,300	617
連結営業利益	259	360	101
棚卸影響前 連結経常利益	240	252	12
連結経常利益	198	300	102
連結当期純利益	87	170	83
Adjusted EBITDA	568	604	36

諸元 (2017年度) : アルミ地金日経平均 275円/kg, 為替 112円/US\$, 原油 55US\$/B

※ 連結当期純利益 : 親会社株主に帰属する当期純利益  
 ※ Adjusted EBITDA : EBITDA - 棚卸評価関係

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

9

2016年度と2017年度の通期業績の見通しについての比較を表にしたものです。

売上高は、主に地金価格が上昇していることや販売数量の増加等により、対前期比617億円と大幅に増加し、売上高6,300億円を見込んでいます。

経常利益以下はすべて対前年で増益となる見込みです。営業利益、経常利益は、エネルギーコストの上昇等がある一方、地金価格上昇による棚卸評価関係の好転、タイの損益改善、販売関係差等により、営業利益で対前期比億円101億円増の360億円に、経常利益は対前期比102億円増の300億円を見込んでいます。なお、経常利益増減分析については、後ほど説明します。

実力ベースを示す棚卸影響前経常利益は、対前期比12億円増加の252億円に、Adjusted EBITDAは、対前期比36億円増加の604億円を見込んでいます。

## セグメント別 売上高・営業利益

UACJ

(単位：億円)

	2016年度 (A)		2017年度見通し (B)		増減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	4,513	268	5,011	349	498	81
伸銅品	432	7	485	16	53	9
加工品・関連事業	1,667	37	1,818	49	150	12
(調整額)	△929	△53	△1,014	△54	△85	△1
合計	5,683	259	6,300	360	617	101

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

10

セグメント別の売上高、営業利益の見通しについて説明します。

当社グループの主力セグメントであるアルミ圧延品の動きは、当社全体の動きと連動していることから、後ほどご説明いたします。

伸銅品は、主力であるエアコン用銅管での数量増加が見込まれることから、増収増益を見込んでいます。

加工品・関連事業は、海外において、Whitehall社が12カ月連結されることや、国内では流通子会社において、エアコン用アルミフィン材等が好調なことにより、増収増益を見込んでいます。

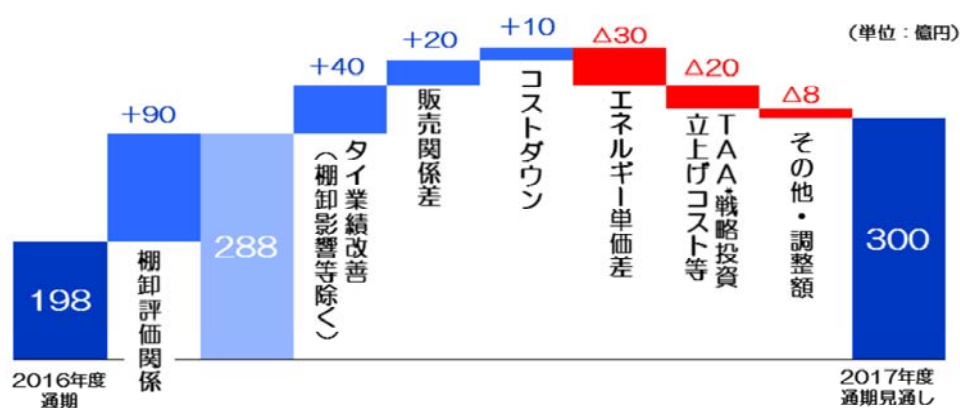
## 連結経常損益分析 (2016年度 → 2017年度見通し)

UACJ

198億円 (2016年度) → 300億円 (2017年度見通し)

統合効果差 +10億円を含む

(2016年度 110億円 → 2017年度見通し120億円)



© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

\*TAA: Tri-Arrows Aluminum Inc.

11

経常利益の損益分析について、説明します。

経常利益は2016年度実績198億円から、2017年度は300億円と増加する見通しです。統合後としては、最高益更新の見通しです。

棚卸評価関係は、地金価格上昇により90億円好転する見込みです。

主な増益要因として、タイ工場の販売数量増加にともない40億円増益、タイ以外の販売数量増加により20億円、統合効果差によるコストダウンは、2016年度に予定よりも前倒しで効果が発現したことから、2016年度対比では10億円の増益を見込んでいます。

減益要因としては、エネルギー価格の上昇にともない30億円減益、TAAの設備投資にともなう立上げコストの増加により20億円、全社その他で8億円の減益となります。

全体としてみますと2017年度は大幅増益となり、統合以降、過去最高益を更新する見込みです。

## アルミ板 品種別売上数量

UACJ

(単位千トン)

品 種	2016年度 (A)	2017年度 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	626	665	39
箔 地	47	53	6
I T	20	25	5
自 動 車	104	135	31
厚 板	67	57	△10
その他一般材	158	175	17
合 計	1,021	1,111	89
	国内市場向け 518 海外市場向け 503	国内市場向け 536 海外市場向け 575	18 71

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

12

アルミ板品種別売上数量について説明します。

2017年度は1,111千トンと、対前期比89千トン増加を見込んでいます。国内市場が536千トン、海外が575千トンで、タイ工場の供給能力増強を受けて初めて海外が国内を上回るという数字を見込んでおります。

主要な品種についてお伝えします。

缶材は、堅調な国内需要を背景に、缶材は国内のシェアが下げ止まり、今後はボトル缶需要の取り込みが期待できます。海外では米国TAAで、自動車向けアルミニウム母材供給を増やすため、缶材生産は若干落ちるものの、タイでの大幅増加を見込み、缶材全体では増加を見込んでいます。

箔地は、リチウムイオンバッテリー需要の増加にともない増加見込みです。

ITは、モバイル機器への需要増加を見込んでいます。

自動車は、アルミ化需要の伸長にともない、国内外の自動車向けパネル材が引き続き好調です。TAAからのCUA向け母材供給も大幅に増加する見込みです。

厚板は、LNG船向けが減少する一方、液晶・半導体製造装置向けは好調に推移すると見えています。

その他一般材は、国内建材および、海外市場向けフィン材等の増加を見込んでいます。

## 設備投資・減価償却費見通し

UACJ

2017年度設備投資：北米、タイでの戦略投資を中心に増加見込み

(単位:億円)

		2016年度	2017年度 見通し
設備投資	一般投資	112	159
	戦略投資	204	454
	合計	316	613
減価償却費		228	250
戦略投融资		231	38

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

13

設備投資・減価償却費の見通しについて、説明します。

2016年度の設備投資は316億円、減価償却費は228億円でした。

2017年度の設備投資は613億円、減価償却は250（内UATH単体40）億円を予定しています。一般投資は159億円と、対前期比47億円増加を見込んでいますが、主に国内製造所の品質・安全対策関連の投資やクレーン設備更新、海外押出機更新等によるものです。

戦略投資は454億円と、対前期比250億円増加を見込んでいます。主にUATH第3期投資、およびTAAへの鋳造・冷間圧延への投資です。

なお、2016年度の戦略投融资は231億円となりました。主に、Whitehall社の株式取得、乳源の株式追加取得（25%→49%）、CUAへの融資です。2017年度は子会社（CUA）への融資の他は、大きなものは見込んでいません。



## 2. グローバル展開～タイ、北米、日本 2016年度総括と今後の見通し

続いて、グローバル展開～タイ、北米、日本について、2016年度の総括と今後の見通しについて説明します。

## 需要はアジアから中東・豪州まで拡大

- UATH\*のお客様は50社以上に拡大中
- アジアだけでなく、中東、豪州のお客様からの引き合いも強い



豪州・アジア（日本・中国除く）  
中近東・インド・アフリカ  
缶材需要見通し



タイ事業から説明します。

UATHは、タイおよび東南アジア周辺への供給というイメージがあるかもしれませんが、お客様は東南アジアだけでなく、中東から豪州まで広がっています。今現在、缶材・熱交換器材・一般材のお客様で50社以上あり、UATHとしてカバーしています。

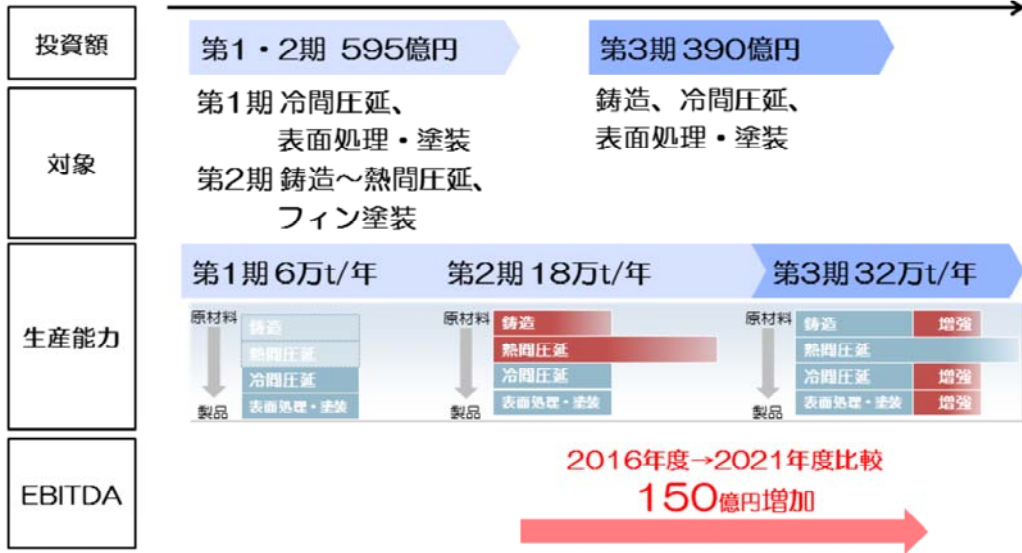


# 投資効果の実現 (UATH)



2019年度以降投資効果が実現、EBITDAが大幅に拡大

2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 (年度)



© 2019 UACJ Corporation. All rights reserved.

16

これまでタイのUATHでどのくらい投資をし、どの程度の増益を期待しているかについて、整理したのがこちらのチャートです。

一貫生産を立ち上げるべく、第1期で冷間圧延、表面処理・塗装ライン、第2期で鋳造から熱間圧延ライン、フィン塗装ラインを入れ、合計で595億円の設備投資を実行しました。生産能力として18万トンの工場を垂直立上げしました。第3期投資は、十分な需要が見込めたことから、昨年11月に決断し、主に、鋳造、冷間圧延、表面処理・塗装ラインの増強として、390億円の設備投資を決定しました。これにより、生産能力は32万トン/年となり、福井・名古屋の製造所と並び、高品質でコスト競争力のある、アジア屈指の工場となります。

EBITDAは、第3期投資による生産性の向上により、2016年度から2021年度比較で、150億円の大幅な増加を見込んでいます。

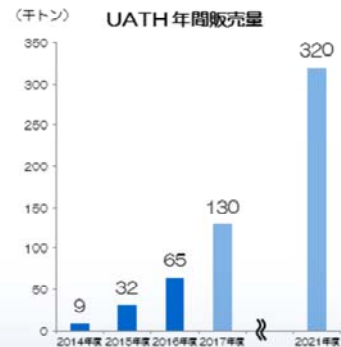
## 2017年度下期営業損益、2018年度経常利益で黒字化を目指す

### 2016年度総括

- 第3期設備投資決定 (約390億円、11月)
- 習熟度は徐々に向上
- 材料認定が予定より遅れたが、販売数量増加

### 今後の見通し

- 缶材での材料認定の遅れは、2017年度上期中には解消見込み
- 販売量：足元8~9千トン/月  
下期平均1.3万トン/月へ
- 2017年度下期に営業損益、2018年度には経常損益での黒字化を目指す



ここでは、タイ (UATH) の2016年度総括と今後の見通しについてご説明します。

2016年度について、先ほど説明したとおり第3期の390億円の設備投資を決定しました。一貫生産が立ち上がってから約1年半の若い工場であり、まだまだとはいえ、習熟度は徐々に向上しています。16年5月に見ていた当時より、材料認定が遅れましたが、販売数量は、3.2万トンから6.5万トンに増加しました。

今後の見通しですが、缶材の材料認定については、2017年度上期中には解消の見込みが立っています。販売数量は、足元8~9千トン/月で推移していますが、下期には1.3万トン/月を見込んでいます。

損益については、2017年度下期に営業損益で、2018年度には経常損益での黒字化を目指します。

## 缶材への供給懸念、自動車用パネル材需要の拡大

### 缶材：大手の自動車シフトで供給懸念

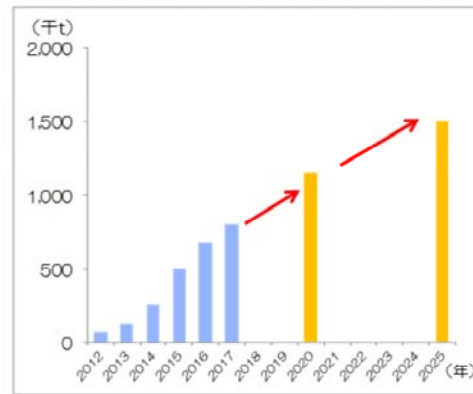
米国にて自動車用パネル材への設備投資を大手各社が発表  
(A社、N社ほか)  
→缶材への供給懸念

世界一の缶材生産効率をもつ  
TAA\*の市場プレゼンス向上  
事業機会のさらなる獲得

業界における  
「リーディングサプライヤー」へ

### 自動車：CAFE規制対応で需要増加中

北米：自動車用パネル材市場需要



(単位：千トン、当社推定)

続いて、北米を取り巻く需給環境です。

北米における自動車用パネル材の需要が増加している一方、缶材のグローバル供給メーカーが自動車向けにシフトしており、供給懸念があります。

タイのところで述べたように、UACJグループは、お客様からはグローバルに供給できるメーカーとして認識されています。缶材生産において、TAAはライバルにはない生産効率を誇り、北米におけるプレゼンスはさらに高まっています。

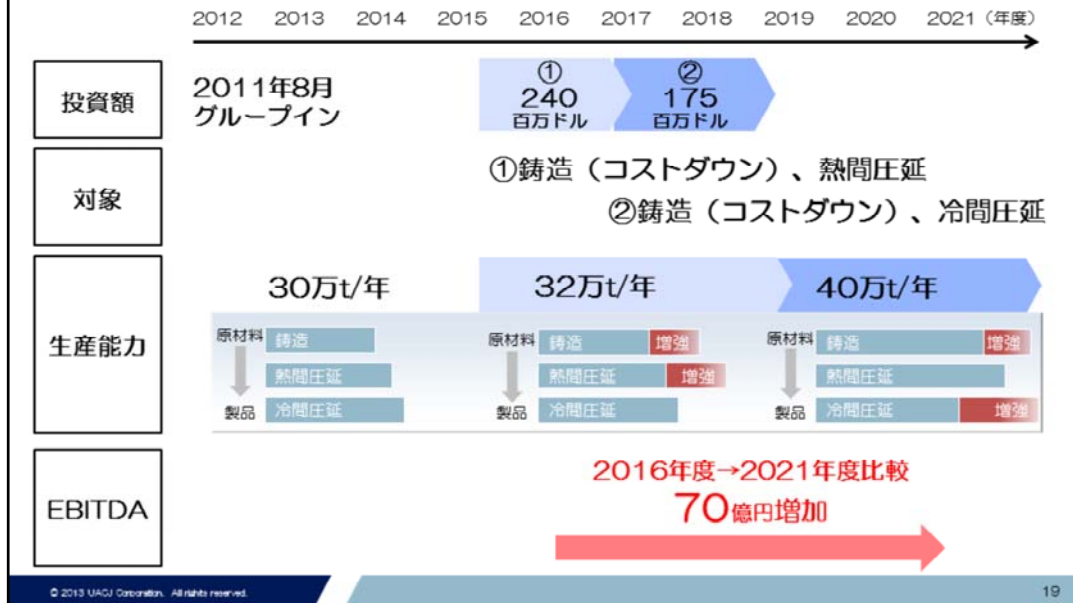
すなわち、「リーディングサプライヤー」としての地位を確立しつつあります。

一方、自動車用パネル材については、これまで触れてきたように、燃費規制にともなう軽量化の波にのり、2020年は100万トン以上、2025年には150万トンの需要があると言われてしています。

## さらなる事業機会獲得と収益拡大 (TAA)

UACJ

### 缶材・自動車材の安定供給にむけた投資の実行と収益拡大



タイ (UATH) 同様、北米 (TAA) において、これまでどのくらい投資をし、どの程度の増益を期待しているかについて、整理したチャートです。

2011年にARCO (現TAA) の株式を取得し、北米市場に本格参入して以降、世界一生産効率のよい缶材の工場として、当社は北米で地位を確立してきました。

TAAでは、2015年10月に鋳造能力の増強によるコストダウンや熱間圧延への投資を目的に、240百万ドルの設備投資を決定。そして昨年11月に、生産能力増強と収益力改善のため、175百万ドルの設備投資を決定。缶材の供給能力を落とさずに、自動車向けパネルの母材供給量を増やすための生産基盤を確立していきます。

EBITDAは、これらの投資によるコストダウンや生産性向上、販売数量向上により、2016年度から2021年度比較で、70億円の増加を見込んでいます。

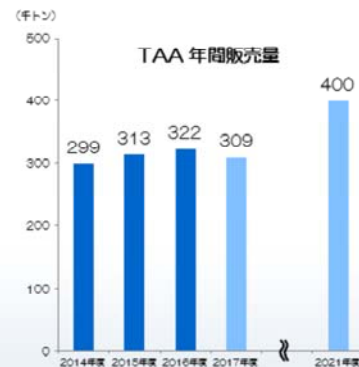
## 自動車向け需要増、缶材供給懸念に北中米グループ子会社で対応

## 2016年度総括

- TAA: 鋳造投資（保留分）、冷間設備投資決定（175百万ドル、11月）
- CUA: サンプル出荷、販売開始
- Whitehallの子会社化

## 今後の見通し

- 自動車向け需要増、缶材供給懸念に対して北中米グループ子会社で対応
- TAA: 立上げ費用増加で、2017年度は2016年度比では減益
- CUA: 着実な認証取得と販売数量拡大
- UWH: 設備投資の実行と販売数量拡大



北米の主要子会社の2016年度総括と今後の見通しについてご説明します。

2016年度について、まずは先ほど説明したとおり175百万ドルの設備投資を決定しました。

CUAではサンプル出荷、および販売も開始し、TAAからの母材供給量も増加してきました。また、2016年4月には、軽量化にともなう構造材需要の増加を見据え、北米の構造材・部品におけるリーディングカンパニーのWhitehall社を子会社化しました。

今後の見通しですが、北米の缶材の供給懸念への対応、自動車用パネル材、構造材の需要増を見据え、北中米のグループ子会社でビジネス機会を取り込んでいきます。TAAは設備投資にともなう立上げ費用の増加で、2017年度の利益は対前期比で減少しますが、先ほど説明したとおり、投資効果は2020年、21年と発現していきます。CUAは、パネル材需要の増加を踏まえ、認証取得を着実に進めていきます。UWHは、今年2月に発表しました通り、構造材・部品需要の増加に対応し、約30億円の設備投資を決定しました。最新鋭の機械の導入により、生産効率、品質の向上、収益拡大を図っていきます。



## 最適な生産体制の構築は概ね予定通り、統合効果は前倒して発現

## 2016年度総括

- 最適な生産体制の構築は概ね予定通り  
統合効果110億円
- 販売量：缶材は微減も自動車向けや厚板が増加

## 今後の見通し

- 缶材シェア回復、自動車向け、液晶・半導体製造装置向け需要増への対応
- 中計最終年度として、国内生産の最適化を実現
  - コストダウンの追求
  - 生産効率の向上



日本国内の2016年度総括と今後の見通しについて説明します。

2016年度は、国内では統合後に進めていた、最適な生産体制の構築について、需要の変化も見ながら概ね予定通り進めました。統合効果は、2016年度までの累計で100億円の発現を予定していましたが、結果110億円と、前倒して効果が発現しました。今後は、自動車向けを中心に需要の増加が見込まれるため、これに対応した生産体制を進めていきます。

今後の販売量見通しは、缶材のシェアの回復、引き続き好調な自動車向け、液晶・半導体製造装置向けの需要の増加などが見込まれるので、それらに着実に対応していきます。

### 3. 財務状況、株主還元

続いて、財務状況と株主還元の考え方について説明します。

## 成長資金の確保と財務基盤を強化

	公募増資 (5,500万株)	+	劣後ローン (60年)
金額	146億円		400億円
目的	UATH 第3期設備投資資金 生産能力向上、コスト低減		主に設備投資に充当 (買収資金除く、有利子負債返済含む)
効果/特徴	自己資本比率向上 希薄化を最小限に抑制		格付け上50% (200億円) 資本認定→財務基盤安定

公募増資と劣後ローンを組み合わせることで、  
希薄化を抑えながら財務基盤の安定を図る

すでにご存じのとおり、今年3月の資金調達を行い、財務基盤を強化しました。

公募増資は、UATHの設備投資用途で発行したコマーシャルペーパーへの充当として、劣後ローンは、主に北米での設備投資資金への対応として調達しました。

公募増資と劣後ローンの両建てによる実施、また、この金額バランスにしたのは、劣後ローンは、格付け上、資本性が50%認められるため、希薄化を抑えながら財務基盤の安定を図ると考えたためです。



自己資本比率は改善

	2016/3末	2017/3末
自己資本（億円）	1,650	1,841
自己資本比率（%）	24.9	25.4
有利子負債（億円）	2,890	3,238
D/Eレシオ（倍）	1.75	1.49*
R O E（%）	3.0	5.0

\* 劣後ローンの資本性考慮後

公募増資により、自己資本および、自己資本比率は改善しています。

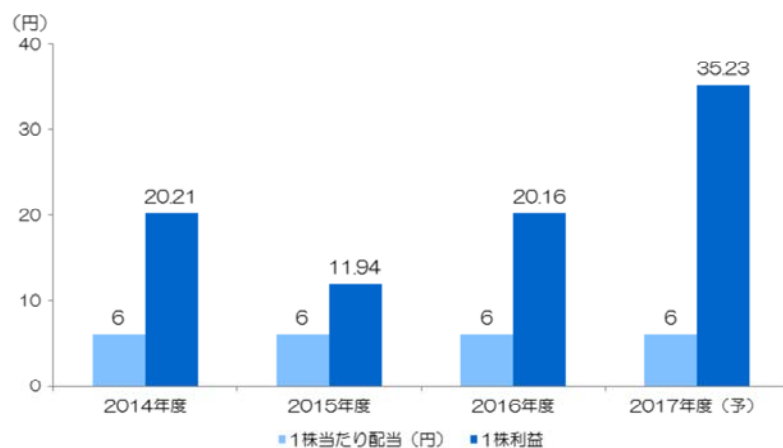
有利子負債は、増加していますが、さきほど説明しましたとおり、有利子負債に含まれる劣後ローンは、50%資本性が格付け上認定されます。

劣後ローンの資本性考慮後のD/Eレシオは1.49倍と、中期経営計画で定めた2017年度1.33倍の目標に近づいています。

ROEは、利益の増加にともない、5.0%となりました。

## 基本方針：安定的かつ継続的に実施

業績の動向、企業価値向上のための投資、競争力強化のための研究開発資金の確保、財務体質の強化等を総合的に勘案



\*単元株式数変更および株式併合（2017年10月1日に変更）前のベースで表記

配当については、先般発表した設備投資によるキャッシュアウトの時期、資金調達をしたばかりであること等を踏まえ、6円を継続します。

今後も安定的・継続的な配当を方針としながら、業績動向や財務状況等を踏まえ、配当性向も見ながら決定していきます。

## 4. 中期経営計画の進捗

最後に中期経営計画の進捗について、お話しします。

国内No.1からアルミニウムメジャーを目指す取り組みを実行中

### 「Global Step I」重点方針

- 1 自動車を中心とした輸送分野、エネルギー分野などの成長製品の拡大とアジアを中心とした成長地域の事業強化
- 2 各事業の最適な生産体制の構築および技術融合の推進
- 3 先端基礎研究の強化と豊富な蓄積技術の活用による新技術・新製品の開発

### 主な取り組み

- 1 北米：CUA立上げ、Whitehall子会社化（自動車用パネル材、部材）  
TAA一設備投資、CUA母材供給の実行（缶材、自動車用パネル材）  
タイ：UATH一貫生産開始、第3期投資の実行（缶材、熱交他）  
中国：UACJ東陽光設立（熱交） 欧州：UEHEM設立（熱交）
- 2 最適な生産体制の構築は、概ね予定通り
- 3 研究リソースの名古屋への集中・一元化、新製品開発と次世代基盤技術強化を推進

次期中期経営計画－2018年3月末に発表予定

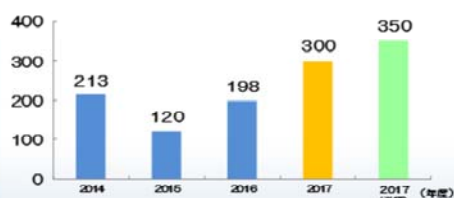
当社は2015年度からの3年間、中期経営計画「Global Step I」を進めてきました。2017年は最終年度です。グローバル展開を強化して国内の構造改革を進めて国内の基盤を強化し、新製品、新技術を上市していくという内容です。こちらは主に板関係のことを示していますが、板関係以外の押出、製箔、鋳管、銅管と、中期経営計画で立てた施策は投資もすべて込みで推進、実行してきました。

次期中計については現在策定中で、2018年3月末に発表予定です。  
今後も真のアルミニウムメジャーを目指し、成長を加速していきます。

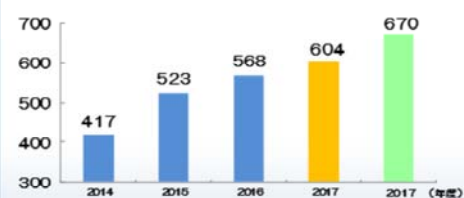
## 中期経営計画の進捗状況

UACJ

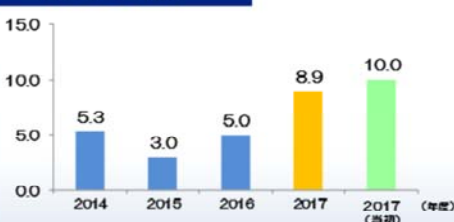
### 経常利益 (億円)



### Adjusted EBITDA (億円)



### ROE (%)



### D/Eレシオ (倍) \*



© 2018 UACJ Corporation. All rights reserved.

28

最後、ご参考までに、中期経営計画で提示した指標の進捗状況です。

それぞれの指標において、当初計画には若干届きませんでした。利益関連（経常利益、Adjusted EBITDA、ROE）は増益基調にあり、財務体質も改善方向と、中期経営計画に従って実行してきました。今年が中期経営計画の最終年度として、計画を着実に実行していきます。

## ご参考データ

## 諸元と感応度



	2016年度 (実績)	2017年度 (見通し)	経常利益への 感応度
アルミ地金 日経平均 (円/kg)	236	275	10円/kg変動 →20~30億円
LME (米\$)	1,688	1,900	\$100/t変動 →22~35億円
為替 (円/米\$)	109	112	ほぼ影響なし ・燃料単価、添加金属：円高が有利 ・ロールマージン、為替換算差：円安が有利
為替 (円/タイヤパーツ)	3.08	3.25	
原油 (米\$)	45	55	10ドルの変動 →約10億円

# 燃料単価推移





# アルミ地金日経平均・アルミ基準地金



## 主要指標推移



(億円)	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度 (見通し)	
売上高	5,725	5,757	5,683	6,300	
連結営業利益	237	152	259	360	
棚卸影響前連結経常利益	142	203	240	252	
<棚卸評価関係>	71	△83	△42	48	
連結経常利益	213	120	198	300	
連結当期純利益	86	51	87	170	
Adjusted EBITDA	417	523	568	604	
設備投資	一般投資	120	124	112	159
	戦略投資	345	181	204	454
	合計	465	305	316	613
減価償却費	218	222	228	250	
戦略投融資	38	55	231	38	
自己資本	1,723	1,650	1,841	1,982	
自己資本比率 (%)	25.4	24.9	25.4	26.9	
有利子負債	2,959	2,890	3,238	3,248	
D/Eレシオ (倍) *	1.72	1.75	1.49*	1.40*	
ROE (%)	5.3	3.0	5.0	8.9	

\* 劣後ローンの資本性考慮後

## 将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があり、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

## 著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料ならびにIR関係の問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

広報IR部 TEL：03-6202-2654 FAX：03-6202-2021  
URL：http://www.uacj.co.jp  
(東証1部 コード番号：5741)